

## ドイツの環境保全、一口知識

- ドイツの市民の8割は、廃棄物対策のもっともよいコンセプトは、ごみの分別収集とリサイクルだと考えています。
- ドイツでは、ビールや水、清涼飲料水などの容器の6割にリターナブル容器が使用されています。これは世界一の割合です。
- ドイツには、戸建住宅を中心に10万件の太陽光発電設備が建設されています。
- 2006年にドイツで開催されるサッカーワールドカップでは、サッカーの歴史始まって以来、初めて環境保全が目標に掲げられました。
- ドイツでは、エコ・テキスタイルがカタログで簡単に注文できます。
- ドイツでは、管理された有機農業によって生産されたことを保証するBioラベルが、2万におよぶ食品に付帯されています。

「持続可能な暮らしと社会」展では、さらに興味深いその他の事例や、すぐに実践できるもの、参考になる取り組みの数々をご紹介します。

ドイツ環境保全展「持続可能な暮らしと社会」は、次のプロジェクトパートナーによって実現されました。

### 連邦環境省

連邦環境・自然保護・原子炉安全省（略称BMU）は1986年7月6日に設置されました。同省の所在地はベルリンとボン。政府の環境政策に関する責務を担っています。連邦環境庁、連邦自然保護庁、連邦ドイツ放射線保護庁の3つの機関が同省に属しています。



### ドイツ環境財団・環境コミュニケーションセンター

ドイツ連邦環境財団（略称DBU）は、環境保全に関する模範的なプロジェクトを推進しています。創設以来14年間にわたり、既に6,000件余りのプロジェクト（補助額11億ユーロ）を支援してきました。

DBUの支援によって生まれたプロジェクト成果は、環境コミュニケーションセンター（略称ZUK）が、各種資料や見本市、イベントなどを通じて広報活動を行っています。



### ECOS コンサルタント

1988年に設立されたECOSは、日独間の企業提携や産業交流の橋渡し役を担っています。日独に広がる幅広いネットワークをもとに、環境・経済・社会・工学など、各分野での専門知識と長年培ってきた市場での経験を生かした活動を行っています。



### DHL

DHLは、国際運送とロジスティック業界のグローバル・リーダーとして、ロジスティックソリューションをはじめ、航空・海上貨物、陸上輸送分野での総合サービスを展開しています。世界各国で220以上の地域を結ぶ国際ネットワークを保有し、世界各地の市場を熟知しているDHLには17万人余りの従業員が働き、迅速で確実なサービスを提供する活動に取り組んでいます。2004年の売上げ320億USドル余り。DHLは、ドイツポスト・ワールドネットの100%子会社です。



### 企画

ECOS コンサルタント  
Westerbreite 7, D-49084 Osnabrück, Germany  
[www.ecos-consult.com](http://www.ecos-consult.com)

ドイツ連邦環境財団環境コミュニケーションセンター  
An der Bornau 2, D-49090 Osnabrück, Germany  
[www.dbu.de](http://www.dbu.de)

ドイツ連邦環境・自然保護・原子炉安全省  
Bonn/Berlin  
[www.bmu.de](http://www.bmu.de)

### 発行者

ドイツ連邦環境財団環境コミュニケーションセンター

### 文章および編集

ヴェレナ・メンツ (Verena Menz)  
ステファン・ルムメレ (Stefan Rümmele) / ZUK

### レイアウト

ビルギット・マヤヴスキ (Birgit Majewski) / ZUK

### 総合制作

ドイツ連邦環境財団環境コミュニケーションセンター

### ポスター（パネル）展を開催してみませんか

あなたの自治体／学校／組織／団体でも、ポスター（パネル）展を開催してみませんか。下記のご連絡先にお気軽にお問い合わせください。  
（ポスターの在庫がなくなった時点で、受付を締め切らせていただきますのでご了承ください）

### ECOS GmbH

担当: Johanna Schilling (ヨハンナ・シリング/Ms.)  
Westerbreite 7, 49084 Osnabrück Germany  
Tel.: +49-(0)541-9778-200  
Fax: +49-(0)541-9778-202  
E-Mail: [jschilling@ecos-consult.com](mailto:jschilling@ecos-consult.com)

インターネットでも同展示会の情報をご覧いただけます。  
[www.ecos-consult.com](http://www.ecos-consult.com)

## 持続可能な暮らしと社会

### ドイツ環境保全展



— 地球の未来を次世代に伝えるために —

2005  
2006

Deutschland  
in Japan  
日本における  
ドイツ





## ご挨拶

2002年、ヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議」において、持続的な消費・生産モデルに関する10年間の枠組プログラムの開発が採択されました。そこでは、先進国は率先して模範を示すことが求められています。また、消費者も消費による環境や気候への影響が拡大しつつあるということを認識し、それに対する行動を取らなくてはならないことが、今回の会議で明らかにされました。

自動車、衣類、食料品など、私たちが購入しているものや、そのための生産活動が環境に対して多大な影響を及ぼしています。例えばドイツでは、温室効果ガス排出量全体の4分の1以上が個人生活における消費に起因しています。

しかし訴えかけるだけでは十分ではありません。各自にいったい何ができるのかということについて、具体的な情報や行動の機会が市民に提供されなくてはなりません。そのためには、国の環境政策と並んで、産業、商業、消費者センター、メディアにもそれぞれの役割が求められています。それに対して、ドイツでは既に多くの取り組みを共同で実践してきました。そのいくつかを、この展示会でもご覧いただけることでしょう。「家庭でできる気象保護」「No Energy運動」「戸建て住宅の太陽光発電設備」「フェア・トレーディング」「ブルー・エンジェル」「家庭におけるリサイクル」「カー・シェアリング」「有機農業による食料品」「エコ・テキスタイル」など、当展示会で提示されているテーマが、みなさんのドイツに対する従来の印象に加え、新しいドイツのイメージに結びつくことを願っています。そして、ご自身にとって何か得られるものとなれば、それは私にとってこの上もない喜びです。

連邦環境・自然保護・原子炉安全省大臣  
ユルゲン・トリティン



## 持続可能な暮らしをめざしたドイツの環境保全

環境保全は、ドイツにおいて多くの関心を集めており、国民の9割以上の人が重要なテーマであると考えています。

ドイツ人が考え、取り組んでいる環境保全とは、例えばこんなことです。

- 環境に負荷をかけずに生活や仕事をする。
- スポーツや休暇も環境負荷をかけずに楽しむ。
- 有機農業はどのように推進すればよいか。
- 家庭でリサイクルに取り組むには。
- フェア・トレーディングによって輸入されたお茶を飲むことで何が変わるのか。など

では、一体なぜ、ドイツで環境保全がそれほど重要視されているのでしょうか。ドイツ環境保全展「持続可能な暮らしと社会」では、これらを含めたさまざまな疑問にお答えするとともに、興味深い技術革新の例を紹介し未来像を提示しながら、私たちがどのようにして次世代の生活基盤を損なわずに、しかも快適な生活を送ることができるのかを説明していきます。

## ■ いっしょにやってみる環境保全

環境保全は、それほど難しいものではありません。展示会では、25枚のポスター（パネル）で、ドイツに限らずどの国でもだれでもできる環境保全の例を分かりやすくご紹介いたします。

## ■ 内容

ポスター（パネル）では、地域生産品の奨励から持続可能な漁業、循環経済に至るまで、多様な事例を取り上げています。

ハスの葉の持つ自然の作用を発見したり、「気象保護の模範国」ドイツが京都議定書の目標達成にむけてどのような取り組みをしているのか、また、家庭における電化製品のスタンバイ・モードが、環境負荷をもたらしているだけでなく、いかに経費を無駄使っているかということをご覧ください。そしてエコ・テキスタイルに目を配ってみると、環境にやさしいことと美しいことが両立することもお分かりいただけるでしょう。



## ■ さまざまな人たちのために

同展示会は、学生や一般市民の方から環境専門家、自治体関係者まで、知的的好奇心旺盛な全ての方を対象としています。

## 開催にあたって

ドイツ連邦環境財団（略称DBU）は、民間の非営利財団として1990年に設立されました。当財団は、中小企業の振興を視野に入れた環境保全のための革新的なプロジェクトを助成することを任務としています。そして、そうした活動を通してアジェンダ21に対応した持続可能な発展に資することを目標としています。

財団では、設立以来、10億ユーロ余りを投じ、6,000件を超えるプロジェクトを助成してきました。助成にあたり特に重点が置かれているのは、環境負荷の発生を事前に回避し、問題の表面的な解決にとどまらない、予防的で統合的な環境保全対策です。当展示会では、財団の助成プロジェクトを通じて、中小企業がもたらした数多くの成果事例もご覧いただくことができます。

もう一つの中心的な活動分野は、環境コミュニケーションと環境教育です。財団では、環境問題に対する、意識、知識、行動があらゆる社会分野により浸透し、日常生活に定着すべきだと考えています。なぜなら環境にやさしい製品を選択するのは、消費者自身だからです。

当展示会では、ドイツの持続可能な暮らしに向かうためのさまざまな道を紹介していますが、これは日本にも共通するものが多くあるに違いないと考えています。どうぞこの展示会での例を参考にされて、例えば、旅行の予約時、家の改築の時、あるいは買い物や家事など、日常生活の中でみなさんご自身の持続可能な暮らしへの道を見つけてください。

みなさまのご来場を心より歓迎いたします。

ドイツ連邦環境財団理事長  
Dr. フリッツ・ブリックヴェッデ

